

研究紀要、ご活用ください!!

胆振教育研究所では様々な事業を行っています。今回は「理論研究」について紹介します。

理論研究

1 研究主題 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくり

2 前年度までの研究

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のため、2つの側面から授業改善の方向性についてまとめました。
- 本研究所の委託校、実践校を中心に、胆振管内の実践事例を紹介しました。
- 各教科の学びのポイントについて具体例を示しながらまとめました。



どうぞご活用
ください!

○令和3年度理論紀要
<http://www.iburi-education.jp/data/kiyou235.pdf>

○令和4年度理論紀要
http://www.iburi-education.jp/data/r4_kyoikuriron.pdf

3 今年度の紀要は… (予定)

- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた実践を教科ごとに紹介します。
- ・ICTの有効的な活用について、実践を紹介します。
- ・授業と家庭学習の連動について、実践を紹介します。



2月末に発行予定です。ご期待ください!!

研究委託校・実践校

今年度、胆振教育研究所と共同で研究を進めていただく、研究委託校と実践校が決まりましたので、その研究の概要をお知らせします。

公開研究会を実施する学校もありますので、先生方の研修の機会として研究会に多くの方が参加していただくと幸いです。

研究委託校 一覽



洞爺湖町立洞爺中学校

校長 西村 雄一
研究委員 越智 渡

11月
28日(火)

主体的に学習に取り組み、
確かな学力を身につけた生徒の育成
～ICTの有効活用による授業改善を通して～

研究領域 全教科

白老町立白老小学校

校長 仲見 真樹
研究委員 黒川 知恵

11月
10日(金)

一人一人の学びをつなぎ、
個別最適な学びを目指した授業づくり
～「主体的・対話的で深い学び」の
視点からの授業改善を通して～

研究領域 国語科・算数科・自立活動

豊浦町立礼文華小学校

校長 深松 一宏
研究委員 竹内 淳

11月
24日(金)

目標に向かって努力し、
学び進める子どもの育成
～「主体的な学び」を実現する
算数の授業づくりを通して～

研究領域 算数科

壮瞥町立壮瞥小学校

校長 宮村 直人
研究委員 安住 理歌

今年度
予定なし

教育の連続性と豊かなかかわりの中で
主体的に学びを高め、
未来のふるさつをつくる子の育成
～児童一人一人に、確かな学力を
身に付けさせるための授業改善をととして～

研究領域 全教科

安平町立追分中学校

校長 渡辺 知峰
研究委員 山田 真美

11月
10日(金)

主体的・対話的で
深い学びの実現に向けた授業改善
～探究心を育み、言語活動を通して
互いに学びを深める授業づくり～

研究領域 各教科

厚真町立厚真中学校

校長 北尾 稔
研究委員 大村 悠斗

今年度
予定なし

自ら学び、他者と高め合う生徒の育成

研究領域 各教科

登別市立富岸小学校

校長 小野島 晶
研究委員 木戸 厚貴

11月
17日(金)

読みの力を身に付け、
豊かに表現する子の育成
～「言葉による見方・考え方」を働かせる
言語活動の充実を通して～

研究領域 国語科

むかわ町立穂別小学校

校長 新谷 隆
研究委員 櫻庭 彪海

今年度
予定なし

自ら考える力を身に付けた児童の育成
～「既習事項を活用する力の育成」と
「学び合い」を通じて～

研究領域 全教科

伊達市立東小学校

校長 近藤 大作
研究委員 西島 勇武

11月
17日(金)

個別最適な学びと
協働的な学びの実現を目指して
～「チャレンジ・コミュニケーション・主体的」
3つのキーワードを通して～

研究領域 国語科・算数科等

研究実践校 一覽



白老町立竹浦小学校

校長 千葉 康弘
研究委員 石井 晴香

今年度
予定なし

自分の考えを広げ、深める子の育成
～分かった!できた!楽しい!を生む
探究型授業を通して～

研究領域 全教科

むかわ町立穂別中学校

校長 三品 秀行
研究委員 松本 真帆

11月
22日(火)

自己調整し学び続ける生徒の育成
～指導と評価の一体化×ICTの活用～

研究領域 全教科

豊浦町立大岸小学校

校長 南 正彦
研究委員 岡垣 健一

今年度
予定なし

主体的・協働的に学び合う子どもの育成
～算数科の学習を通して～

研究領域 算数科



5分間ミニ研修

「教育DXについて」

GIGAスクール構想で1人1台端末が実現しました。教育DXによって学校はどのように変わっていくのか、ご覧ください。

教育DX(デジタルトランスフォーメーション)とは

デジタルを活用し、教育をトランスフォーメーション(変化)させること。

〈教育データの利活用について〉

令和4年1月7日に、「教育データ利活用ロードマップ」が示されました。現状では、教科書やテスト、保護者向け資料など、多くの場面で紙が使われています。それに対して、目指すべき姿では、デジタル化による効率化、再利用、学習状況の可視化、手間や業務の軽減などがイメージされています。

教育データ利活用の目指すべき姿 (to be)



〈教育DXの例〉

- MEXCBT (メクビット)
文科省が運用するコンピュータ支援テスト。国などが作成した問題が蓄積され、利用できるシステムです。
- 校務の情報化
名簿、在籍データの共有による省力化、児童生徒情報の蓄積共有などによって業務を効率化させます。
- デジタルシティズンシップ教育
デジタル機器を用いて社会に参画するために必要な能力や資質を育みます。

参照 経済産業省 教育データ利活用ロードマップ004_03_01.pdf(meti.go.jp)
最新教育動向2023 (明治図書) 小倉直子、堀田龍也、坂本 旬